

名電工学園新聞

発行所
名古屋電気学園
愛知工業大学短期大学部
名古屋電気工業高等学校
愛知工業大学附属中学校
同窓会本部
名古屋千種区若水町1
TEL (721)0201・0311

果たすべき本学園の使命



大陸の東に弓状を呈し日本海と太平洋に開かれた小さな四つの島からなる国、

世界地図を広く眺めると、ユーラシア大陸と云う世界最大の

若人に期待する

後藤 鉦二先生
名古屋電気学園理事長
愛知工業大学学長

若人に期待する
たゆまぬ努力と研究を

あるものは日本国の大部分を占める山部と人、人、人のみである。これは日本の世界への進



〔高校西校舎及び体育館(手前)〕

リス

愛知工業大学附属中学校
二年 石黒俊之

りんごをやると
両手でもって行儀よく食べるとても可愛い奴なんだ

昭和四十四年一月二十五日
名電工学園プラスバンド定期演奏会
於 県文化講堂

求め、我が民族の卓越したブレインを投入して、製品を完成し、外国に輸出する

後藤学長
日本卓球協会々長に就任

若者
近代オリンピック

安井副学長逝去

学園発展に不滅の業績



(故安井副学長)

安井副学長は一月七日、心筋こうそくのため、名古屋市千種区の自宅で逝去された。五十八才。

附屬中学校長、学生代表等、教員科を率て、昭和九年の甲種が続き参列者の献花

附屬中学校長、学生代表等、教員科を率て、昭和九年の甲種が続き参列者の献花

昭和四十四年度募集要項

愛知工業大学大学院
修士課程研究科目及び募集人員
電気工学専攻 五名
応用化学専攻 五名
試験期日 昭和四十四年二月二十日(一)より三月二十二日迄

愛知工業大学第一(昼)
試験期日 昭和四十四年三月一日
募集人員 各八〇名
電気工学科、電子工学科、機械工学科、経営工学科、土木工学科、建築工学科、応用化学科

愛知工業大学第二(夜)
試験期日 昭和四十四年三月十三日
募集人員 各四〇名
電気工学科、機械工学科

愛知工業大学短期大学部
試験期日 三月二十日(第一次募集) 三月二十七日(第二次募集)
三月二十五日(第一次募集) 四月五日(第二次募集)

名古屋電気工業高等学校
試験期日 二月二十日(第一次募集) 三月八日(第二次募集) 三月十五日(第三次募集) 三月二十二日(第四次募集)

愛知工業大学附属中学校
試験期日 二月二十日(第一次募集) 三月八日(第二次募集) 三月十五日(第三次募集) 三月二十二日(第四次募集)

名古屋千種区若水町一ノ八
学校 名古屋電気学園
電話 七二一〇二〇(代表)

年を追うごとに昔を懐かしむのは人の世のつねとか、我がクラスが年々盛況は衰えてきているんですか...

何れも忘れて「ひたすらに仕事をしている」そんな時は、心身共に張りつめていて、病魔の寄りつく...



母校を創立して三〇年記念の我等が同窓会は、黒、白、こま塩、濃いものが、薄い髪の色が、黒髪の色が、黒髪の色が、黒髪の色が...

人生、これ、ギャンブル。なりと、ボン、チーと始まる。あたりが夕暗につつまれ...

朝より陰うつな天候の五月十九日の午さき、緑に開いた窓を写す岩の茶屋に...

我ら四十七期生 第二十二回クラス会より

朝より陰うつな天候の五月十九日の午さき、緑に開いた窓を写す岩の茶屋に...

り済んでそれより、多数の方々の寄せられた酒、ビール、飲むほどに酔う程に...

身につけたい 不撓不屈の根性

今年度就職状況 今年度の卒業生(四四年三月卒)の就職状況について、中間報告と、筆者が考へていることあらましを述べてみよう。



今年度就職状況 今年度の卒業生(四四年三月卒)の就職状況について、中間報告と、筆者が考へていることあらましを述べてみよう。

の求人申込みが例年より、ずつと早く、求人事業所数も非常に多くなったことである。現在までの求人件数は一四〇〇社余、求人数は五〇〇〇人を超え、今後はまだ求人があるだろう。

(1)在籍者数七三一名(工業課程) (2)大学各種学校進学者希望者一四一 (3)就職内定者、五三〇、就職希望に願書を提出し、試験やその結果を待つがこれより十八名であるが採用内定される。

祝 オリンピック 六八・メキシコ大会出場 若杉和彦 二十一才。愛知県出身。名電工学卒。愛知工業大学機械科四年在学中、フエンスン部員。

真野一夫君 真野一夫 二十八才。滋賀県出身。名電工学卒、法政大学卒、スポーツ店自営、名電工学フエンスンゴーチ、世界学生選手権日本代表(トリノ) 東京五輪日本代表 一六九cm五八kg

学園人事 当日の出席者(敬称略) 荒川文吉、石田三郎、石野清、大塚茂好、梅村稔、遠藤、奥田豊、恩田正雄、加藤明、近藤稔、権田茂、坂倉清美、須賀、関山弘、田口良雄、高見来次、中原宗一、長谷部勇、阪野紅二、樋口富男、村尾久男、村瀬忠男、山田精一、力石重丸、以上二十六名

Table with 12 columns (numbered 1-12) and 3 rows (numbered 1-3) detailing school events and schedules. Includes dates like '昭和四十三年四月二十日' and '昭和四十三年六月十七日'.

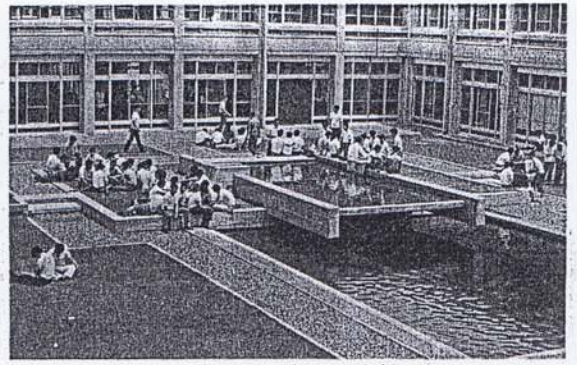
昭和四十三年度後期 名電学園行事予定表

Table with 12 columns (numbered 1-12) and 3 rows (numbered 1-3) detailing school events and schedules. Includes dates like '昭和四十三年四月二十日' and '昭和四十三年六月十七日'.

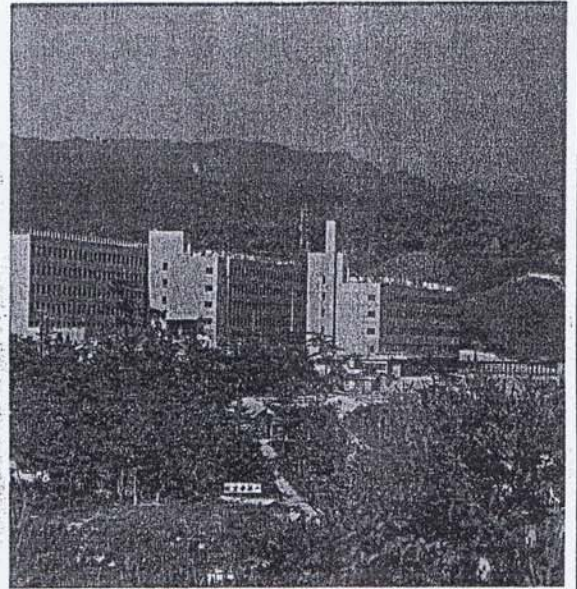
グラフ特集

緑の丘に威容を誇る(豊田市北部)

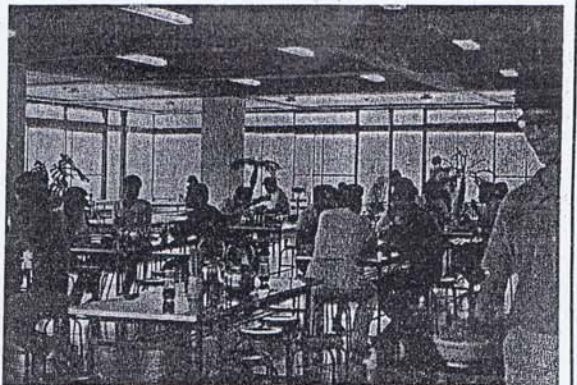
愛知工業大学：八千草台校



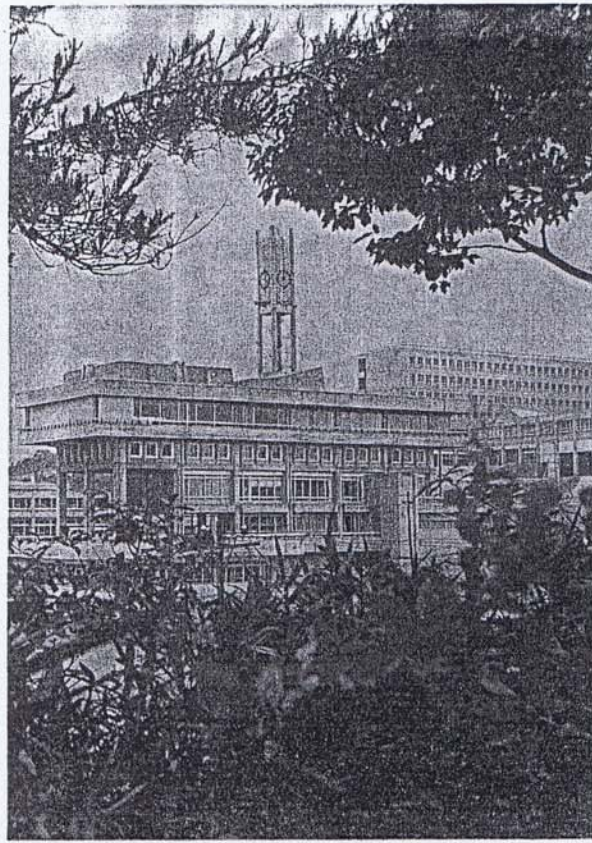
【学生いこいの場……中庭】



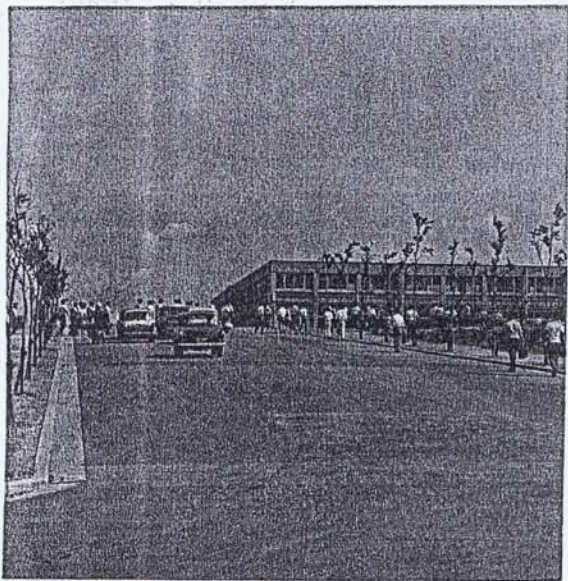
【600名を収容出来る暖房完備の八千草寮】



【高級レストランを思わせる……学生食堂】



【シンボルの時計塔も空高く……八千草台校本館】



【緑の空気を胸一杯に今日も……朝の通学風景】

昭和四十三年末には東名高速道路のバイパス、四十五年には国鉄岡多線の八草駅が完成するので、まずまず交通が便利になる。

一方、大学は七月三十一日に土木建築、経営学部の校舎を完成、すでに授業を開始している。また九月初から応用化学科の校舎の建築に着工、来年六月完成する予定である。

さらには岡多線の開通と歩道を含め、既設の電気、電子、機械工学科の各校舎や大学院専用特別研究寮、学生寮の増設、職員宿舎、プール、体育館などを五か年継続事業として、建てる準備を進めている。

都しんを避く離れた緑の丘陵地帯、絶好の地理的条件、すぐれた教授陣と研究設備を兼ね備えた愛知工業大学は躍への若きエネルギーがあふれている。

▽教養学科校舎Ⅱ鉄筋コンクリート二階建て一むね、延べ七三三〇平方呎

▽学生食堂Ⅱ鉄筋コンクリート平屋建て、延べ四三六平方呎

▽学生寮第一、第二、第四棟(六百人収容)Ⅱ鉄筋コンクリート四階建て、延べ六五四四平方呎

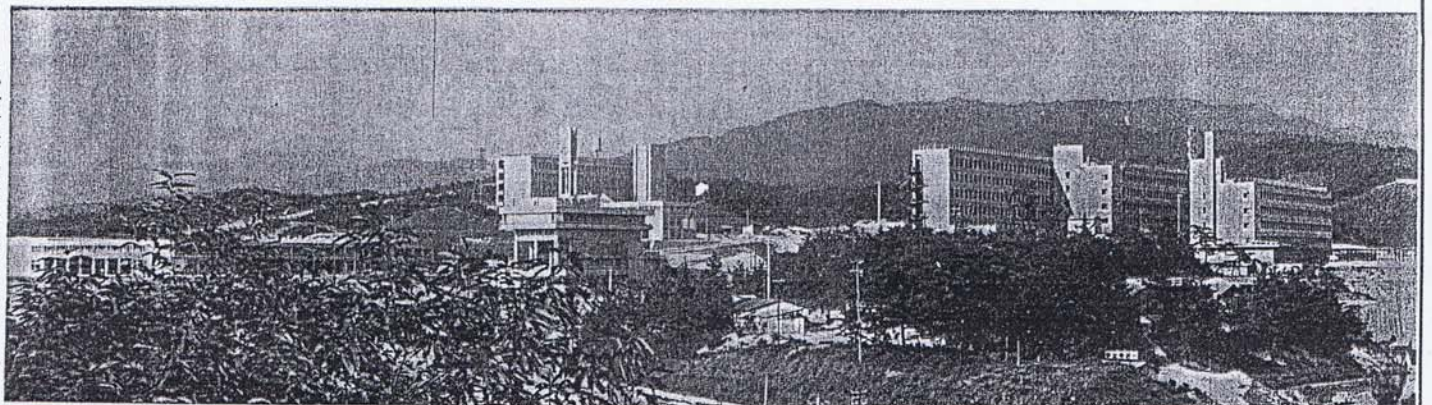
▽競技用グラウンドⅡ三〇〇呎陸上トラックⅡ野球場ⅡバスケットコートⅡ木造平屋建て一むね、一四八八平方呎

八千草台校舎の規模

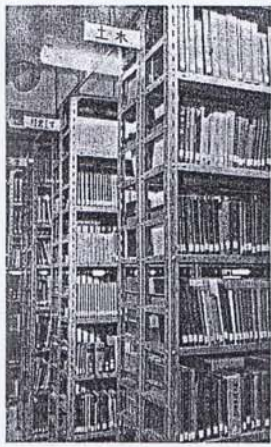
▽大学本部館Ⅱ鉄筋コンクリート六階建て一むね、延べ七四一〇平方呎

▽土木工学、建築学科校舎Ⅱ鉄筋コンクリート六階建て一むね、延べ七四一〇平方呎

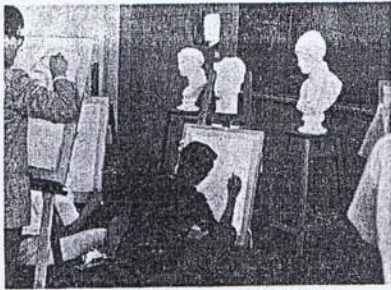
▽応用化学科校舎Ⅱ鉄筋コンクリート四階建て一むね、延べ三三〇〇平方呎(来年六月末完成)



八千草台校舎の全景▽



【知識の宝庫……図書館】



【デッサンをする……美術クラブ】



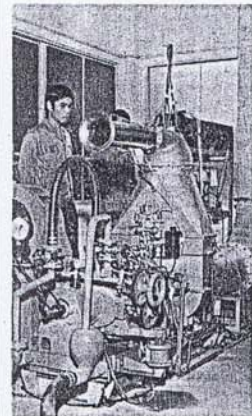
【総べての基礎は先ず設計から……建築学科】



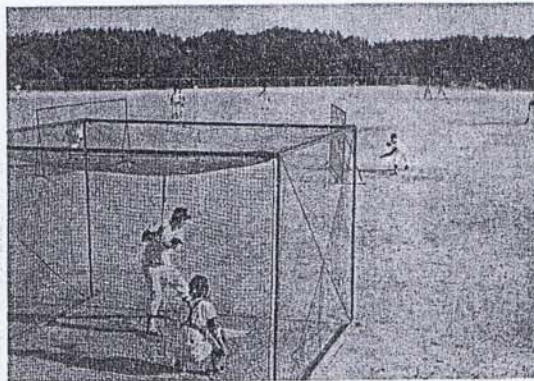
【測量を行なう……土木工学科】

【写真左：電子顕微鏡によりミクロの世界を】

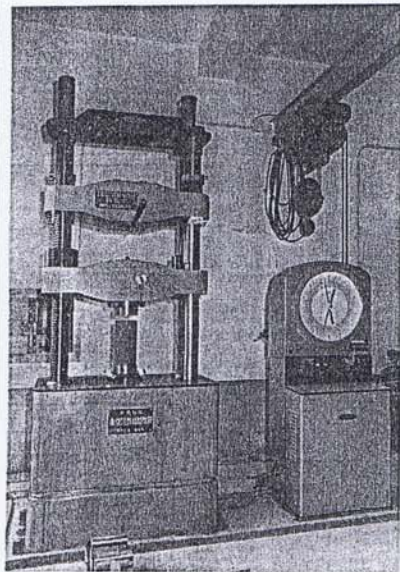
【写真下：世界チャンピオンを容する卓球部】



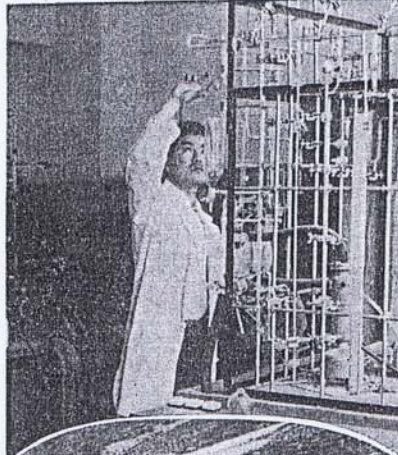
【排気ガスタービン実験】



【愛知六大学の荒れん坊……愛工大野球部】



【耐圧試験機……機械工学科】



【真剣なまなざし……応用化学科】

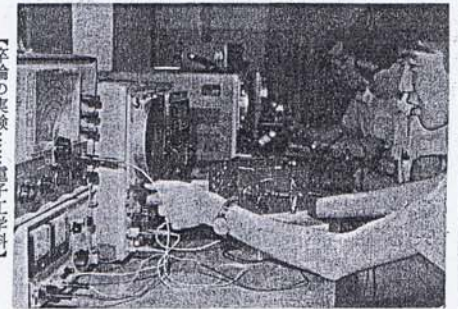


【メキシコへも選手を送った……フェンシング部】

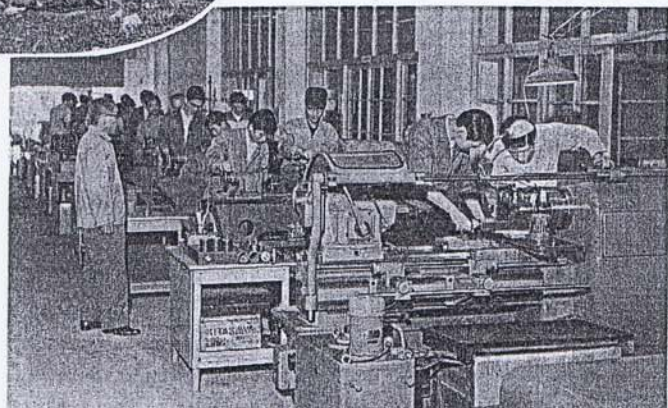


【写真右：都心を離れて……ワンダーフォーゲル】

【日本のムードに浸る……邦楽部】



【卒論の実験……電子工学科】



【机上の学問を自らの手で……機械工学科】

懐しい思い出の数々

愛知電機工作所名電会より

中部電力株式会社の関係で占めることになりま
 会社として我が国の電機業
 界に重要な役割を担い、今や
 海外にも羽ばたいて、現在百
 六十五名の名電学園卒業生
 がそれぞれ、中堅幹部とし
 て或いは第一線の技術者
 として活躍を続けて居ま
 す。

野、長尾の諸先生の出席を
 得て盛大に開催致しまし
 ました。

加藤勇氏(七十三回卒)
 の司会に始まり学園同窓会
 本部の常任理事であり春日
 井市々会議員としての活躍し
 ておる中野久一氏(六十四
 回卒)から現在までの経過
 と今後の予定等について換
 骨がなされ、引き続き学
 生と会社の川口社長は直前
 校の近況等については若井
 先生からなつかしい講義
 第二に入学早々軍隊では
 ないが予科練に劣らぬ精神
 挿入挿で取られ、ど肝を抜



更には二〇番以下は一週
 間の便所の掃除を強いられ
 と云うきびしいマラソン
 ン、授業中、青竹で頭を叩
 り、先生への風当たりが集中し
 全く愉快この上
 なかった。

第三に戦後、
 食糧事情が悪く
 なり毎日、空腹
 にたえかねて朝
 食時に昼の弁当
 も一緒に食べた
 り昼休みに蕎麥
 のり食い、パン
 を外へ買いにい
 って発見された
 話、或いは授業
 中、弁当をたい
 げするたまたらぬ
 スリルの思い出

を披露する者等、枚挙にい
 とまない数時間で実に約
 十年間の思い出を一挙には
 き出しつきぬ思い出の語ら
 いの中、一方では得意の
 どでいうならば、踊る者あ
 り、最後に若井先生のし
 都々逸を聞き轟と相成つ
 った。

つきぬ宴も時間となり最
 後に亀田先生の音頭で万三
 三唱、今年は特に母校野球
 部の夢にまでみた晴れの甲
 子園出場も目前に迫り甲子
 園での全国制覇と毎年一回
 この会を開くことを誓って
 終了した。

当時あまりメロートルを上
 げすぎて若い写真技師をひ
 やかしすぎたせいか、ごら
 んの様な出来ばえになつて
 ことでしょう。

俳句 石野冬青 (昭12・3卒)

雉子鳴くや
 雲の触れぬ如意輪寺
 法螺貝の鳴るや書院の
 明易き
 修験者の背に
 石楠花や岩岩みち
 川流染干すや
 なびける鯉織
 喜佐谷邑 果巻のぞく
 煙出し

理科がようやく小学校の
 授業に加わる明治から大正
 に時が移り変わる頃

産業界、特に電力会社や
 電機会社は電気技術者の不
 足を痛感し、技術者の養成
 に迫られた。

折しも旧浪浪藩御宿邸内
 にて名古屋英独学校を開講
 中、の後藤三郎先生(現理
 事長後藤三郎先生の祖父)
 は中部財界たつての要望に
 こたえられ、名古屋市市中区
 矢場町五丁目に本学園の産
 声が聞かれるに至った。

明治四十五年七月のこと
 だった。今回は創立期をえ
 て(第一回執筆伊藤氏)第
 二回の執筆を同窓会の理事
 をされておられる第四回卒
 業生に加藤勇吉氏に御了承
 を頂き、矢場町時代最後
 (東新町への移転前)の当
 時の思い出の日記を掲載さ
 せていただきます。

稲葉校長の訓示あり、授
 業料納付、一日四時間の時
 間割り、発表される。

四月二十六日
 稲葉校長の科外講話あり
 「ナポレオンの引き出し」
 面白し。今夜七時より本校
 に於いて電気王、名古屋電
 灯(現中部電力株式会社)
 社長の福沢桃介先生の講話
 小倉公園を回遊して五時発

御駐蹕、大演習御統被遊ば
 されるので名古屋市内は大
 賑わいを呈す。

十一月十三日
 わが校は新調の金色さん
 然たは校旗を維持し
 向う里余にて名古屋電灯
 長良川発電所に達し、所内
 に見学、帰路板取川発電所
 同第二発電所を見学す。
 十二月二十一日
 午後、六時半より

れ、会則も作る。
 大正三年二月七日
 電友会第一回茶話会を開
 後藤先生のお出席を乞
 いに喜ぶ。

勉強する。
 先生も熱心にて本科にな
 りた高工に負けない教授
 をして上げるとのこと皆大
 に喜び。

ームの法則」を表わしたる
 ものにて一個三十五銭なり
 先きに本校の象徴たる校
 旗新調せられ、今また校規
 肅正のため私服規定成る。
 本校の偉大な理想は着
 々実現に向う如し。

大正三年五月二日
 昼間学生の本校併設の英
 独学校に通うものあり。
 独乙語は後藤先生自ら教
 授され、英語は中西先生教
 える。

月謝金一円にて英語教科
 書は星野書店発行の「チヨ
 イス・リダー」を用う。
 大正三年五月九日
 かつて本校の寄宿舍に在
 り後、上京せし、旧友の
 木崎君より来信あり。
 同封の為替と共に後藤先
 生に渡す。

名電学園発展史

矢場町回顧録

当時の私の日記より

第四回卒業生 加藤勇吉



△第四回卒業記念写真▽

大正二年四月七日 午前
 八時半より、矢場町校舎に
 て、本校初めての昼間入学
 式式行なわれ、はかま姿の
 新入生五〇名ばかり予科に
 編入さる。

あり。

六月二十九日
 午後、六時より校友会あ
 り、岡本教頭の「キニョリ
 一夫人」のお話、初見、小
 山両講師の講演、稲葉校長
 の訓示、余興に落語一席あ
 り、九時散会。

十月二十六日
 遠足会にて五時笹島駅に
 至れば既に後藤校長をほじ

名電会開かれ、後藤先生、
 御病氣にて欠席せらる。
 清水先生の「国木田独
 歩」本多先生の「権太地
 史」のお話あり。
 大正三年一月三十日
 本多、太田両君の主唱に
 て予科生の同志集りて、電
 友会を組織し、会長に林
 君、副会長に加藤君、幹事
 の神谷、伊藤両君が選ば

名電魂を植えつけられた
 思い出、この当りは特に本
 日出席された長尾先生や水
 野先生への風当たりが集中し
 全く愉快この上
 なかった。

第三に戦後、
 食糧事情が悪く
 なり毎日、空腹
 にたえかねて朝
 食時に昼の弁当
 も一緒に食べた
 り昼休みに蕎麥
 のり食い、パン
 を外へ買いにい
 って発見された
 話、或いは授業
 中、弁当をたい
 げするたまたらぬ
 スリルの思い出

名電会開かれ、後藤先生、
 御病氣にて欠席せらる。
 清水先生の「国木田独
 歩」本多先生の「権太地
 史」のお話あり。
 大正三年一月三十日
 本多、太田両君の主唱に
 て予科生の同志集りて、電
 友会を組織し、会長に林
 君、副会長に加藤君、幹事
 の神谷、伊藤両君が選ば

名電会開かれ、後藤先生、
 御病氣にて欠席せらる。
 清水先生の「国木田独
 歩」本多先生の「権太地
 史」のお話あり。
 大正三年一月三十日
 本多、太田両君の主唱に
 て予科生の同志集りて、電
 友会を組織し、会長に林
 君、副会長に加藤君、幹事
 の神谷、伊藤両君が選ば

名電会開かれ、後藤先生、
 御病氣にて欠席せらる。
 清水先生の「国木田独
 歩」本多先生の「権太地
 史」のお話あり。
 大正三年一月三十日
 本多、太田両君の主唱に
 て予科生の同志集りて、電
 友会を組織し、会長に林
 君、副会長に加藤君、幹事
 の神谷、伊藤両君が選ば

名電会開かれ、後藤先生、
 御病氣にて欠席せらる。
 清水先生の「国木田独
 歩」本多先生の「権太地
 史」のお話あり。
 大正三年一月三十日
 本多、太田両君の主唱に
 て予科生の同志集りて、電
 友会を組織し、会長に林
 君、副会長に加藤君、幹事
 の神谷、伊藤両君が選ば



筆者紹介



(加藤勇吉氏)

大正四年三月、名古屋電
 気学校卒(第四回)同時に
 名古屋電灯株式会社(現中
 電)に入社、昭和二十五年
 四月同社、退社後、中電興
 業株式会社に入社、昭和三十
 五年十二月名古屋電気学
 園に奉職、昭和三十九年八
 月同窓会理事、現在に至る。
 現住所 名古屋緑区鳴海
 町向町二四四
 奥機 子女三人孫七人曾
 孫一人七三才。

躍進する技術のアイチ



アイチのトランス

■営業品目 変圧器・小型モータ・電動工具・タコグラフ・電気暖房機品

愛知電機

春日井市松河戸町3880 486 電話 <0568> 81-2131(代) 電略 ナゴヤアイチトランス

東京支店・大阪支店・札幌出張所・仙台出張所・福岡出張所・沖縄出張所

史上初の

三種目全制覇(卓球)

昭和四十三年全国高等学校総合体育大会を順りみて



(堂々入場行進をする愛知選手団)

全国高等学校体育界最大のイベント、昭和四十三年全国高等学校総合体育大会は七月二十七日広島県に於いて開催された。我が名古屋電気工業高等学校からは五種目に愛知県代表権を得て大会に臨んだ。折しも台風四号接近の荒れ模様の天候であったが、七月二十八日午前九時、広島県、呉市、呉体育館では昭和四十三年全国高等学校総合体育大会のフアンフアールが高らかに鳴りひびいた。

学園のホープ

去る三月二十一日より行なわれた第四十回選抜卓球大会は出場校三十三校の選手連はちきれんばかりのファイトと技術で、甲子園球場を沸かした一校である。初出場ながら三月三十一日の四回戦で甲賀高校に、四月三日の対北陸の王、高岡戦、そしてベストエイト進出を決め、準々決勝対尾道商高と、スタンドに形づくられた我が校のMの文字を背に名電ナインはここに大活躍を果し、愛知の名電、の名を全国に轟かした。

卓球、野球の名電、卓球の名電、一は全国的に有名、然し、このフレイズに今一言よきなく付け加えさせられる事態が生じた。卓球の名電、と野球も強い名電、と数年間の名電野球の目覚まし台頭を無視することは出来ないから。野球も強い名電、のフレイズの付入を加え決定したのにはなんといつても皆さん、すでに御承知の如く、第四十回選抜高等学校野球大会中部地区代表に選ばれた。卓球の名電、の創立以来十二年間、一路甲子園出場目ざし日夜、悪戦苦闘をつづけてきた。ここに遂に本学園の歴史の一頁を作った。

参加種目及び参加選手名
卓球 E三内藤良司
山本三
牧野敬一
佐藤隆夫
浅田林造
E二大沢 伸
安藤 守
宮島芳幸

フエニング
三勢力義夫
川際成夫
田村静夫
G三大藤雅夫
伊藤広正
G二中川勝夫
E三福垣清一
寺倉道雄
R三富田清仁
E二森川三津夫
E二加藤 悟
G二長江新八
E一阿部 博

自転車
一〇〇〇米タイムトラ
イアル
E一倉橋光司
一〇〇〇米ポイント
M二若杉茂樹

実用車四〇〇〇米速度
競技
M三青川修治
ウエイトリフティング
ミドル級
G三丹羽清美
以上参加選手合計二十五名の戦績は次の通り。
卓球(於広島・呉市体育館)

(団体予選リーグ)
第一試合
名電工五〇〇北海高
第二試合
名電工五〇〇星稜高
第三試合
名電工五〇〇星稜高
(決勝トーナメント)
第一回戦
名電工五〇〇柳商工
準々決勝
名電工五〇〇広島高
準々決勝
名電工五〇〇二相模工大附
名電工五〇〇一近大附
(名古屋電気工業高等学校は九年ぶり九度目の優勝)

(男子組)
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

(女子組)
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

(準々決勝)
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

敗れランク五位
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

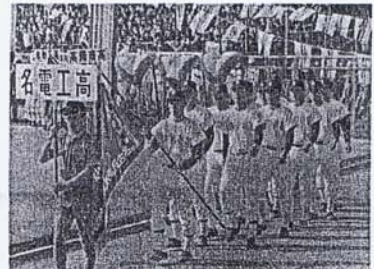
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本
名電工五〇〇山本

卓球に次ぐ

名電工野球

この栄ある夢の甲子園出場出来たのも決してこれだけの過去に築きあげられた土台を忘れては成し得たのではない。昭和四十三年に、はや中部大会へ思えばはじめて硬球を握り鈴木隆氏(初代野球部監督)あまりにも華々しく、第四十回選抜高等学校野球大会中部地区代表に選ばれた。

この栄ある夢の甲子園出場出来たのも決してこれだけの過去に築きあげられた土台を忘れては成し得たのではない。昭和四十三年に、はや中部大会へ思えばはじめて硬球を握り鈴木隆氏(初代野球部監督)あまりにも華々しく、第四十回選抜高等学校野球大会中部地区代表に選ばれた。



惜しまれた昭和39年の大会は愛知大会決勝に進出の高校に夢の甲子園出場を

学年	打率
三年	0.340
三年	0.257
二年	0.245
三年	0.250
三年	0.218
三年	0.352
二年	0.489
三年	0.250
三年	0.300
三年	0.211
二年	0.219
二年	0.235
三年	0.187

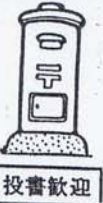
かけての思つまる激戦、結果は一点の差で、甲子園出場に涙をのんだ。岡崎より現監督、鈴木先生を迎えたのは昭和四〇年だった。新監督就任を祝うかのように、中部大会準々決勝、四十一年、四十二年同大会優勝。甲子園入りはこのような土台が、敷かれていたからその出場も決つた。

あるまい。その他の参加種目は本校から県代表に二名選ばれ、スクラッチ・レーン準優勝の杉原光君はよくやっていた。昨年と比べれば卓球部ののみをぞいであふ、卓球については、日本卓球史の前人未踏の大記録達成、即ち名電工が三冠王・学校対抗、個人ダブル・シングルの個人全種目独自の金字塔は正に歴史の一ページに不滅の記録をのこすことになろう。

同窓会本部ではごらんの如く三面に、名電学園発展史、なるものをOBなどから執筆で今刊よりシリーズでお送りしようということになりました。それ故、本部の編集係より電話なりあるいは直接本人に面会して、執筆をおねがいする積りで、いろいろその都度はおねがい致します。尚、こういった読書のつづけるシリーズを送り返す場合、より一層當時を回想し、又當時を理解して頂くためにそのころの同級生の写真或いは学校の建物などの写真がみなさんのお手元にあります。是非一報下されば幸いです。連絡先七二二〇三二一 亀田、古田、林へ

スバリ戦評
全国から予選を勝ち抜いて来た気鋭連で競うこの大会は高校生にとつては最大の大会であり、又この一戦にすべてをかけてきた一年間の総決算でもある。今年の名電工は昨年と比較し参加種目が一つ減、相撲が姿を消している。数字前の岩本、竹内両君が君臨し、高校相撲界にその名を欲しいままにびたしと競べるとそのまじしさを禁じえないのは筆者一人では

御願
同窓会本部ではごらんの如く三面に、名電学園発展史、なるものをOBなどから執筆で今刊よりシリーズでお送りしようということになりました。それ故、本部の編集係より電話なりあるいは直接本人に面会して、執筆をおねがいする積りで、いろいろその都度はおねがい致します。尚、こういった読書のつづけるシリーズを送り返す場合、より一層當時を回想し、又當時を理解して頂くためにそのころの同級生の写真或いは学校の建物などの写真がみなさんのお手元にあります。是非一報下されば幸いです。連絡先七二二〇三二一 亀田、古田、林へ



投書歓迎